

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8202
京都市左京区田中大塚町49
075-701-3210

関西支部長に就任して

— 洛友会に思うこと —

関西支部長 細田 純一郎 (昭36年卒)



このたび図らずも関西支部長を
あいつとめることとなりました。
私ごとがその任にあらず、と固
辞したのですが、いろいろと事情
があつて止むなくお引き受けした
次第です。お引き受けしたからに
は一生懸命あいつとめる積もりで
すので、よろしくお願いいたしま
す。
始めに今年度の関西支部の活動
状況をご紹介したいと思います。
関西支部の年間の主要行事として
は、春の支部総会、春秋年2回の
ゴルフ大会および秋に実施する家

族見学会などがあります。
今年の支部総会は6月15日に京
都タワーホテルで行いましたが、
ちょうどこの日は松波弘之先生の
退官記念講演と重なり、大変不評
を頂戴しました。この紙上を借り
て不手際のお詫びを申し上げます。
この総会では定例議題の他に、
大学の近況報告として、今度移転
が予定されている桂キャンパスの
概要や、文部科学省のCOEプロ
グラムで京大ががんばっている状
況などをお聞かせいただき、卒業
後とかく疎遠になりがちだった母
校との距離が少し詰まった感じを
持つと共に、若き日の京大生の頃
の誇らしかった気持ちがあふみか
えった思いでした。来年春の総会
はまだ日や場所が決まっておりま
せんが、本部総会との併催の予定で
あります。教室から有益なお話も
いろいろお聞かせいただけると思

いますので、多数の会員の参加を
お願いしておきます。
年2回のゴルフ大会は春、秋に
武庫ノ台ゴルフコースで実施して
います。2回のうち1回はできる
だけ同年次の組み合わせで、もう
1回は世代間の交流が図れるよう
大先輩と若い人が一緒にまわれる
ような組み合わせとなるようにす
るなど、せっかくの機会ですので
少しでも意義のあるようにするた
め、工夫してやっています。武庫
ノ台ゴルフコースは関西電力(株)の
傍系ということもあつて、昔から
ずっと関西電力(株)の方々に幹事を
やってもらっています。いつもご
苦勞様です。
家族見学会は関西支部最大のイ
ベントであります。日帰りで行け
る範囲で、奥様方や将来の洛友会
員たるお子様方にも楽しんで、な
おかつ、できれば勉強の意味合い
も少し含めて、費用も余り高くつ
かないように、と言う大変難しい
条件の中で、行き先の選定や当日
の運営など、幹事さん方に大変ご
苦勞いただいております。
今年10月26日(日)に、明石海峡
大橋、淡路島、鳴門大橋を経由し
て、鳴門渦潮の観賞および大塚美
術館鑑賞を計画しています。
このうち大塚美術館は世界の名画
を陶板焼きとして再現したものを
展示しているところですが、一度
見た人は皆、大変すばらしいと感
嘆しています。この会報がお手元
にとどく頃には、もしかしたら間
に合わないかも知れませんが、ぜ

ひ多数の参加をお待ちしていま
す。
以上の他、今年度は2年に1回
の洛友会名簿発行の年に当たつて
おりまして、会の財政負担を少し
でも軽くするために、会員の所属
されている会社を中心に、名簿へ
の広告掲載をお願いして参りまし
た。お陰様で大体目標どおりの広
告を集めることができました。大
変厳しい経済状態の中で、ご賛同、
ご努力いただきました会員の皆さ
まに、この紙上を借りて厚く御礼
申し上げます。
さて、今年度中に母校電気系教
室の大学院専攻が桂キャンパスに
移転します。大学そのものも来
年4月から独立行政法人になると
いう、大改革が進められています。
これに対応して、今年50周年を迎
えた洛友会も、新たな半世紀を迎
えるに当たりどう変わっていかば
良いか、じっくり考える時期に來
ているように思います。
先日東京支部長の藤江恂治君
(昭37年卒)が訪ねて来てくれて、
洛友会のこれからについて、いろ
いろと情報交換をしました。とり
あえずは洛友会運営の現状の間
題、すなわち会費納入率の向上策
や名簿発行の都度強引な広告の勧
誘をいつまでも続けるのか、など
に始まって、洛友会を活性化して
いくにはどうすれば良いか、特に
若い人々にもっと参加、活動して
もらうにはどうすれば良いか
等々、短時間ではありましたが、
意義のある話し合いをさせていた

だいたと思っております。つま
るところ結論としては、多数の会員
に魅力のあるメニューを提供し、
洛友会そのものが会員にとって魅
力のある同窓会組織として存在す
ることが大事ということになりま
した。
具体的な方策については、本部
の先生方とも相談していこうとい
う事になりました。
東京支部の活動状況もいろいろ
聞かせていただきましたが、中
でも卒業年次を5年毎にくくつて実
施されている拡大クラス会は、大
人数にもならず、同世代で共通の
話題も出やすく、集まりやすい良
いやり方だと思われました。関西
支部でもこのアイデアを拝借して
始めてみたいと思っております。
洛友会は会員の年代層が幅広
く、また同年代でも各界で活躍さ
れている会員が数多く居られま
す。このような会は、会員にとつ
て非常に価値のある存在ははず
ですが、その価値が表にはつきり表
れていないというのが、現状では
ないかと思えます。本部の先生方
とも相談しながら、洛友会の役割、
会員にとつての魅力、メリット、
更にはそれらを通じて洛友会の活
性化、健全化等について再点検を
進めていきたいと考えています。
ただこのような議論はあまり大
上段にふりかぶると具体的に何も
進まないということもなりかね
ません。できることから少しずつ
改善していくということも必要な
ことだと思えますので、この観点

から二、三私見を述べさせていた
だきますので、ご意見をお聞かせ
ただければ幸いです。

1. まず洛友会名簿ですが、これ
は大多数の会員にとっては、会か
ら受ける唯一最大のメリットであ
ると思います。これにメールアドレス
の記載があれば使い勝手も良
く、名簿としての魅力、値打ちも
向上するでしょう。本部でもぜひ
ご検討いただきたいと思ひます。

2. 次に活性化方策ですが、対処
すべき問題のひとつに、周知連絡
徹底していかないということがあ
るようです。会から会員への会報な
どによる一方的な連絡だけでな
く、会員から会に対して情報をと
りに行くシステム、つまり本部、
全支部のホームページが必須であ
ると考えます。この際各ホームペ
ージのアドレスは、洛友会名簿に
は勿論、毎回の会報にも掲載して
おけば、使い勝手の良いものにな
るはずで。

以上2つの施策は、IT時代に育
った若い会員の、洛友会に対する
理解、参加意欲の向上にもつな
がっていくと思ひます。

3. 会費納入率の向上の件ですが
自動振込制度を採用しては如何で
しょうか。送られてきた振込用紙
を失ってしまったり、つい振込を
忘れてしまったりすることが、相
当あるのではないかと思ひます。
ご理解を得られた方から順次自動
振込に変えていただくのも、時代
と合ったやり方だと思ひます。
ただしこの場合には、ある一定

の以上の年齢になれば、終身会費
をいただき、以降会費が無料とな
るような終身会員制度を設ける必
要もあるでしょう。

以上思いつくままに私見を述べ
ましたが、実行するとなると一時
的に大変な手間や費用もかかるで
しょうが、会の発展のためには時
代の流れにとり残されないことも
大事だと思ひます。

会員の皆様には、一層洛友会の
活動にご関心をいただくようお願い
いし、私見に対するご批判をいた
だければ幸いです。

会員寄稿

通信のNGO...

BHNを語る

池上 文夫 (昭22卒)

《まえがき》

NGOと言えば普通は若者達を
連想するが、BHNは中高年の定
年組が多い一寸変わったNGOで
ある。理事会や総会の出席者は殆
どスーツ姿、「こんなNGO見た
こと無い」と誰かが言っていた。

1992年、元電電公社OBや通
信関係企業の有志が集い、情報通
信でBasic Human Needsに貢献し
ようと設立された。正式名称は
「特定非営利活動法人『BHNテ
レコム支援協議会』」、通称は『B
HN』。英文名『BHN Association』。
ではBasic Human Needsとは何
か？ 最もbasicなものは生命だか
ら、先ずは医療活動となる。

「BHN」は2002年10周年
を迎えた。その間、筆者は殆ど役
に立たなかったが、メンバー達は
目覚ましい仕事を達成してきた。そ
の中で見たものを洛友会の皆さん
に紹介したい。電気技術者が、
技術を別の角度から眺めた時に何
を感じるか、をお伝えしたい。

が、患者は手遅れで亡くなった。
もし電話があれば患者は死を逃れ
たかも知れない。古い通信でも、
それを得た人々の喜びや感謝は想
像を遙かに越える。恥ずかしなが
らこの「馬鹿」は、BHNで漸く
これに気が付いた。

《BHNに思うこと》
卒業後、通信省・電電公社通研
京大・拓殖大学。電波と通信の研
究に明け暮れた50年、「技術馬鹿」
と自ら心得ていたが、「BHN」
で「とんでもない馬鹿」と気付い
た。先刻承知でもやはり気になる。

現役の技術者は「新しい」「最
高」を追求し、途上国が渴望する
「既存の」への興味は薄いだらう
が、中高年や定年組は彼の「技術」
が世の中に役立てば満足を感じる
だろう。これは良い悪いではなく、
人生観／技術観に関わる。

工学の技術者は世の中に役立つ
いい技術・システムの創造に賭け
る。いいシステムとは「新しい」
「最高のパフォーマンス」を意味
する。「世に役立つ」も重要だが
「新しい」「最高」が特に重要であ
る。何故なら「既存の」「低い」
なら誰でもできるという誇り（あ
るいは驕り？）があるからである。

湯」の日本でも、NGOは感動を
体験する機会を与えてくれる。
《BHNの構成と運営》
BHNの役員には、元電電公社、
通信関係企業・団体、医療関係、
大学関係、のOBと現役、技術系と
事務系を含む。洛友会会員では岩
贈弘三氏（昭28）（元日本ITU
協会専務理事）が理事で活躍中。
法人会員はNTTグループ会
社、IT関係企業・団体など64社、
個人会員686名。（2003年3月
現在）

誇り高き技術者の努力で、日本
の通信は世界最高に伍した。他方、
世界人口の80%以上が電話を渴望
し、彼等に通信を提供する使命が
我々にあることも知っている。し
かし人間は知るだけでは動かず、
心に強く何かを感じた時に、初め
て自ら考えて行動に移す。

過去の11年間の総事業費は約5億
円（現物支給を除く）。この経費
は会員の会費、各種補助金（WH
O、ボランティア貯金、草の根無
償資金、電気通信普及財団、企業
の寄付金など）により賄われた。

ある病院に急患が入った。医師
は早急の外科手術が必要と判断し
外科医を呼ばせたが、病院の電話
は古くて使えない。看護婦は外科
医を探して病院中を駆け回る。漸
く外科医が手術室に駆けつけた

《BHNの特徴》
最大の特色は、日本では勿論、
世界でも希少な、通信を基盤とす

るNGOという点にある。通信の
専門家集団をもち、支援企業を背
景に適切な設備を提供する能力は
一般NGOでは不可能に近い。
BHNは医療関係専門家も含
み、通信と医療の総合的な対応も
可能で、地域の医療活動が全面的
にBHNに依存する場合もある。

以上の特徴と10年を越える実績
から、世界の関係者の間でBHN
の評価が高まっている。
《主な支援活動の概要》
《チェルノブイリ原発事故》
1986年4月26日、ウクライ
ナの北端で発生。広島の500倍の放
射線量が北方に拡散し、400万人以
上の住民が被災したと言われる。
北隣のベラルーシは国土の70%が
汚染、400の村が強制移住により廃
村となった。特にゴメリ州は最大
の被害を受けたとされる。

旧ソ連時代、被害は厳秘、ソ連
崩壊（1991）後、各国が調査
を開始。日本では長年実績のある
長崎大学（山下俊一教授が中心）
が現地での調査・診療に活躍して
いた。
事故時0-14歳の小児の調査
で、事故後10年間に甲状腺癌発生
数/年が約10人から200人に激増、

事故の影響が明確となる。(10年間の小児発癌総数は約900名)

BHNは、長崎大学の医師が日本で診療できるテレメディスン(遠隔医療)用に、診療の中心オプニンスク放射線医学研究所(MRRC)とモスクワ間120kmのマイクロ波回線(11GHz帯、4中継。中継機はNTTの好意支給)を建設し寄贈した(1994)。(モスクワ以遠は一般の衛星回線を利用)。

1997年インマルサットによりゴメリ診療センターと長崎大学間の直通回線を提供、更にウクライナ僻地病院と各州立病院間にインマル・システムを提供、地方の患者の遠隔医療も可能とした。

現地の医師の小児甲状腺癌手術は10年以上昔の技術で、「世界で最も美しい」ベラルーシの少女の首に、両耳から咽喉の下までU字型に醜い大きな傷跡が残る。信州

大学助教授の菅谷(すげのや)昭氏は1996年その悲惨な状況を知り、大学を退職してミンスク国立癌センターに無給で奉仕、彼の開発した最新技術で執刀した。首の皺に沿う細く短いきれいな傷跡に現地の医師達は驚嘆、菅谷センセイに教えを請う。その後、ゴメリ州立腫瘍病院で医師達を指導、5年半の間に顕著な成果を上げた。その感動的な活躍はNHK-TVの『プロジェクトX』で放映された。

BHNは菅谷氏の支援と共に、後にゴメリ州立病院―信州大学間

の遠隔医療システムを提供した。ベラルーシ、ウクライナへの検診指導、医薬品供与の支援は現在も引き続き行なわれている。

〈セミパラチンスク核実験場〉

カザフスタンのこの地区では、1949〜1987年の間に400回以上の核爆発実験が行われた。「カザフ科学アカデミー特別調査隊」が1958年作成した、周辺住民や家畜の健康状況の報告書が発見され、長崎大学山下教授等の努力で日本人によりカザフ語から日本語とロシア語に翻訳された。その後も、ソ連時代に封印された核実験と被害状況の解明が進んでいる。

キューバ危機(1962)の翌年、部分的核実験禁止条約(PTBT)が調印され、セミパラチンスクは地下核実験場となる。

広島・長崎は1発の爆弾、チェルノブイリはその数百倍の放射能だが1回の爆発。セミパラチンスクでは40年以上の間460回の核爆発が大気中と地下で繰り返され、状況を知らされない住民が放射能に長期間曝された、悲惨な被害状況が明らかに becoming なる。

ソ連崩壊後カザフスタン経済は困難を極め、BHNは長崎大学の協力を得て医療支援を開始(1997)。また長崎大学―セミパラチンスク直通衛星回線を提供(1999)。医療支援は今も継続中である。

〈ラオスの無線通信網〉

ラオスは山岳が多く、県保健局

と郡病院との間の電話が無い場合や、郡病院から診療所への連絡は、郵便か徒歩連絡に依存していた。病院や診療所の設備も貧弱で、商用電源の無い所もある。ラオス政府は感染症撲滅に努めていたが、感染データの即時収集と早期の対策ができず悩んでいた。

この地形には無線通信が適する。BHNはラオス事務所(祖父江(そぶえ)健一所長(元NTT))を開設(1999)。アマチュア無線機89台を全国の医療施設に設置、JICAの27台と共に主要診療施設の無線ネットワークを構築した。

山岳地帯の道路は殆ど無舗装で雨季には交通途絶もあり、3年余にわたる祖父江氏の言語に絶する苦勞に対しラオス政府から感謝状が授与された。更に現在67台の増設計画が進行中である。

ラオスの北端ルアンアンター県病院、BHNによる無線通信網の一隅で、青年海外協力隊員の助産師小野晶子さんが2年間医療指導に尽力された日誌がBHN経由メールで配信された。劣悪な環境で重症妊産婦の出産に立会い、助産師と人間の心の葛藤の凄まじさは読者に強烈な感銘を与えた。

〈アフガニスタン難民と復興〉

内戦と旱魃で難民470万人(世界全難民2200万の約21%)がいた。ジャパン・プラットフォーム(JPF)日本のNGO連合体。BHNを含む)は飢餓状態の難民を調査(2001)、調査団帰国

直後、9・11の同時多発テロ発生。BHNは10月、イスラマバード(パキスタン)にJPFと共同事務所を設置、ペシヤワール地区で活動中のJEN(日本緊急救援NGOグループ)支援のためVHF通信設備を建設した。

また、パキスタン内2つの難民キャンプで難民に衛星携帯電話の無料電話を提供、501人が利用した。この状況は日本国内のTVで放映され、久しぶりに国外の家族・親戚と電話、互いに無事を喜び涙を流す難民の姿は、日本の視聴者に強い感動を与えた。

この電話サービスで家族との電話を終えた老人が「これでもう私は今日は何も食べなくてもよい」と呟いた、と派遣隊員の報告。これらの出来事は通信自体がBasic Human Needsそのものであることを如実に物語る。

空爆も終り平静が戻ったカブールにBHN事務所を開設(中西洋夫所長(元東芝・BHN参与)、小宮正巳次長(Docomo出向)(2002)、復興支援を開始。アフガニスタンのNGO(Co-ordination of Afghan Relief)にHF無線機40台寄贈、CoAR事務所と国内各地の支所および移動する車両とを結ぶ無線通信網を構築した。

現地では、日本/外国のNGOや、時には国連、日本大使館、JICAが、通信回線の確保にBHNの支援を依頼することも少なくない。

BHNはカブールと神奈川の高校生のテレビ対話に、インマルサット衛星電話とテレビ電話の通信機材を提供した(2002)。両国若者の間で平和・友人・学校などの対話、お互いの心の交流と理解が広がる。その状況は日本国内のTVで放映、現地の厳しい環境を訴えた。同様のテレビ電話交流を東京とカブールの子供達の間でも実施した。

最近、東京足立高校の生徒達はカブールの高校に贈るサッカーとバレーのボール各50個を中西氏に依託。氏は複数の高校に寄贈、高校生達が明るい顔で氏とプレイに興じたとメールは報じた。

BHNは南部中心都市カンダハルにも事務所を設置(2003)。この地区の診療所は電話が無いので、各診療所と結ぶ医療無線網のプロジェクトを現在進めている。

〈その他の支援の項目〉

モリディブ主要な島を結ぶ無線通信施設・医療機材を寄贈。血液検査・診療を支援(92〜93)。ミヤンマー主要病院に院内電話システム・遠隔医療設備・医療機器・薬品を寄贈(97〜02)。カンボジア内戦で荒廃。僻地の診療施設や救急車両との緊急無線網など寄贈(99〜02)。マレーシアサラワク州(ボルネオ島)の総合病院と奥地の病院を結ぶ遠隔医療設備を寄贈(99〜02)。ウズベキスタン救急医療センターと外科研究センター間の遠隔医療の寄贈を計画中。

〈緊急支援の実施要旨〉

ホンジュラス風水害(98)寸断の電話回線復旧に光ケーブル(NTT)の好意支給等機材寄贈。トルコ大地震(99)携帯電話・衛星電話で住民に電話提供。台湾大地震(99)アマチュア無線機35台とVHF無線機50台寄贈。コソボ難民支援のAMDA(日本の医療支援NGO)に衛星電話機貸与(99)。東チモール難民の東チモール帰還を促す移動衛星TV電話を国連に贈呈(00)。インド大地震(01)JPFの難民救済活動の通信を確保し支援。

《人材育成プログラム》

発展途上国の自立には、究極的には「ヒトの支援」が重要と考え、人材育成プログラムを開始した。第1回は1998年。日常日本語、日本文化講座(海外技術者研修協会(AOTS)(通産省所管財団)と通信の専門講義を実施した。

その後毎年実施。第4回からはMulti Media University(MMU)(マレーシア)に協力を依頼。前期はMMUで2ヶ月間、日本の講師(筆者も一部担当)とMMU教員の講義。1年間本国で通信教育研修の後、後期はAOTSおよびNTT研修センターで実施した。

研修生は通信関係機関の重要ポストにある30歳台の若者が中心。3名から開始、第3回以降は定員10名、第5回までの研修生は計30名、参加国はウズベキスタン、スリランカ、バングラデッシュ、ミャンマー、マレーシア、ラオス、モンゴルの7カ国である。

《あとがき》

衆知の通り技術の目的は人類の幸福にあるが、技術者は技術の殻の中に閉じこもり易く、殻を破るには強い動機が必要である。

その方法としてNGO経由の道は興味がある。洛友会の皆さん、NGOを試して見ませんか。

活動には様々あるが、どんな小さな貢献でも、生の新情報に触れ新しい世界を発見できる。社会に役立つと同時に、自分自身をも満たして呉れます。

本稿で述べたBHNの仕事は全て多くの支援企業の後援によるものです。紙面の都合上、現物支給以外は全て企業名を省略したことをご了承下さい。

BHNについてご質問、ご関心のある方はご遠慮なく左記にご照会下さい。

池上文夫
〒195-0061
町田市鶴川428-7
TEL/FAX: 042-735-2987
filegami@coral.ocn.ne.jp
BHNテレコム支援協議会
〒169-0074
東京都新宿区北新宿1-15
TEL: 03-5348-2221
FAX: 03-5348-2223
Basic@bhn.or.jp
http://www.bhn.or.jp/



北米大停電とエジソン賞

松浦昌則(昭53年卒)

今年の夏は、首都圏の電力需給が逼迫し、状況によっては強制停電も有り得ると警鐘が鳴らされてきた。幸い異常気象とも言える冷夏によって冷房需要が伸びず、節電PR効果と相まって無事この夏を乗り切ることが出来た。この日本の異常冷夏に反して欧州では記録的な猛暑が襲い、イタリアでは6月末に輪番停電を余儀なくされ、フランスでは多くの死者を出すほどであった。何かおかしな年だと感じていたところ、8月のお盆時期には北米東部で大停電とのニュースが飛び込んできた。ニューヨーク市が長時間にわたり停電したこと、日本でも大々的にTV・新聞等で取り上げられ、事故原因分析などが報じられている。オハイオ州の一電力会社での発電所故障が発端となつて次々と異常現象が拡大していき、最終的に東京電力の最大電力に匹敵する6180万kWもの規模の大停電となつた。米国とカナダ両政府による調査委員会が設置されて原因究明と対策検討が行われているが、結論を出すまでにはまだまだ時間が掛かるようである。

話は変わるが、米国には日本の電気事業連合会に相当する組織としてエジソン電気協会(EEI)がある。米国の民営電力会社約80

社を正会員とし、海外の民営電力会社約50社も海外会員として加え、諸活動を行っている。そのEEIが、電力業界全体の発展に資する、卓越したリーダーシップ・技術革新・貢献等に対して「エジソン賞」を贈りその栄誉を讃えている。過去40年以上の歴史を有し、顧客サービス・財務運用・環境分野・技術開発・企業再編行動など電力会社の企業活動全般を対象としたもので、EEIの贈る諸賞の中で最も権威の高いものとされている。このエジソン賞に今年、私が勤務する中部電力の「オンライン系統安定化装置(TSC)」が選ばれ、6月のEEI年次総会で表彰を受けた。

オンラインTSCは、時々刻々の電力系統の諸データを取り込み、3〜5分毎に詳細安定度計算を実行し、各断面ごとに事故が発生した場合に必要とされる安定化制御を決定して指令を出すもので、電力系統の状況変化に迅速に対応して最適な系統安定化制御を行うシステムである。日本の電力系統は「放射状系統」が主流であるが、50万V系統や超高压系統の一部では「ループ系統」が採用されている。ループ系統では時々刻々の系統状況を予測するのは難しく、事前設定で系統安定化対策を講じる場合、かなり安定サイドの過剰制御とならざるを得ない。

このため、安定度が過酷な系統では、発送変電設備の能力を十分に活用することが出来ず、経済性が犠牲となることが多い。オンラインTSCでは、時々刻々の系統状態に応じた安定化対策を講じるため、こうした問題を解消し設備の能力を限度一杯まで活用することが出来る。また、系統運用者の負担も大幅に軽減することが出来、リスク対応として優れたシステムであると自負している。

米国の電力系統は、網の目状に何重ものループが出来た「メッシュ系統」となっており、少々の故障では停電しないものの、設備の裕度が少ない場合には連鎖的に故障が拡大していく危険性を秘めている。電力自由化が始まって十年余を経た米国では、発電設備の増設に比べて送電設備の拡充が進まなっている状態にある。米国の電力各社はその危険性を強く認識しており、非常にタイトとなった電力系統の運用を如何にうまく行うかが、喫緊の課題となっている。

過去のEEIエジソン賞受賞社を見ると、経営多角化、設備の標準化、環境対策による貢献が主に評価されてきているのに対して今年、系統運用マターであるオンラインTSCがエジソン賞受賞となったのは、こうした米国電力関係者の課題認識の現れであると思われる。既設設備の能力を十分に發揮させた上で安定供給を維持でき

は、発送変電設備の能力を十分に活用することが出来ず、経済性が犠牲となることが多い。オンラインTSCでは、時々刻々の系統状態に応じた安定化対策を講じるため、こうした問題を解消し設備の能力を限度一杯まで活用することが出来る。また、系統運用者の負担も大幅に軽減することが出来、リスク対応として優れたシステムであると自負している。

米国の電力系統は、網の目状に何重ものループが出来た「メッシュ系統」となっており、少々の故障では停電しないものの、設備の裕度が少ない場合には連鎖的に故障が拡大していく危険性を秘めている。電力自由化が始まって十年余を経た米国では、発電設備の増設に比べて送電設備の拡充が進まなっている状態にある。米国の電力各社はその危険性を強く認識しており、非常にタイトとなった電力系統の運用を如何にうまく行うかが、喫緊の課題となっている。

過去のEEIエジソン賞受賞社を見ると、経営多角化、設備の標準化、環境対策による貢献が主に評価されてきているのに対して今年、系統運用マターであるオンラインTSCがエジソン賞受賞となったのは、こうした米国電力関係者の課題認識の現れであると思われる。既設設備の能力を十分に發揮させた上で安定供給を維持でき

は、発送変電設備の能力を十分に活用することが出来ず、経済性が犠牲となることが多い。オンラインTSCでは、時々刻々の系統状態に応じた安定化対策を講じるため、こうした問題を解消し設備の能力を限度一杯まで活用することが出来る。また、系統運用者の負担も大幅に軽減することが出来、リスク対応として優れたシステムであると自負している。

米国の電力系統は、網の目状に何重ものループが出来た「メッシュ系統」となっており、少々の故障では停電しないものの、設備の裕度が少ない場合には連鎖的に故障が拡大していく危険性を秘めている。電力自由化が始まって十年余を経た米国では、発電設備の増設に比べて送電設備の拡充が進まなっている状態にある。米国の電力各社はその危険性を強く認識しており、非常にタイトとなった電力系統の運用を如何にうまく行うかが、喫緊の課題となっている。

過去のEEIエジソン賞受賞社を見ると、経営多角化、設備の標準化、環境対策による貢献が主に評価されてきているのに対して今年、系統運用マターであるオンラインTSCがエジソン賞受賞となったのは、こうした米国電力関係者の課題認識の現れであると思われる。既設設備の能力を十分に發揮させた上で安定供給を維持でき

本システムのコンセプトが、米国内でも高く評価されたものである。このようなシステムが北米の電力系統にあれば、今回のような大規模停電は防止できたと思われるが、北米系統はいくつもの州に跨る、系統規模の非常に大きなメッシュ系統であることから、その安定化システムも非常に大規模かつ複雑となるため、開発・実運用には多額の費用と長い期間を要すると思われる。既に国防予算を活用した研究が始められているとも聞いており、一刻も早い実現が期待される。

日本の電力系統は、前述の通り放射状もしくはループ系統を基本としており、各電力会社間は1点もしくは2点での交流連系とし各会社単位での系統維持を図っているため、米国のような現象は発生しないが、現在進行中の自由化制度設計によっては、今後同様の状況にならないとは限らない。米国内など自由化先進国の状況を他山の石として、日本にとって最適な制度およびシステムが導入されることを期待したい。

インターネット雑感

安藤 正敏 (昭53年卒)

プライベートなことで恐縮ではありますが、私、昨年末にマンションを購入しました。購入したマンションは、ブロードバンド(BB)

対応で、壁にはTV端子、電話端子と並んでLAN用の接続端子が設置されており、PCをLANケーブルで接続するだけで快適なBB環境を享受することができます。

我が家でPCを購入したのは平成3年頃、インターネットを利用しだしたのは平成7年頃ですが、それ以来、常に、ダイヤルアップ接続で、インターネット使用中は電話が使えないという状況でした。このため、近い内にADSLかCATVでBB環境を整備しようと思っていた時期に丁度、マンション購入となったものです。

実際、BBを使ってみると、それまでの環境と違って、画面の展開が速く、待つこともなく快適で、便利です。

今では、妻も娘も友達との情報交換にメールを活用し、また、列車の時刻表などのちょっとした情報や趣味の世界のダイープな情報もネットで収集しており、1台しかないPCを家族で奪いあっています。少し前までは、PCでのゲームしかしていませんでしたが、快適な環境が提供された途端、各人それぞれが自分の求める様々な情報を集めるようになりました。

私は、もっぱらネット麻雀を楽しんでおります。電話回線を専有してしまいうダイヤルアップ接続では考えられなかったことですが、始めてしまうとアツという間に1時間2時間が過ぎてしまいます。

ネット麻雀は初めてですが、不特定多数の方々との麻雀をするのは、予想外に面白いです。中には行儀の悪い人も居ますがほとんどの人は最初に挨拶をするなど思いのほか礼儀正しいのにびっくりしています。

また、ネットショッピングもお値段が安いということで魅力的ではありますが、今のところ、品質や品物の経歴が判らないなど様々な要素を考慮すると、今一踏み込めていません。臆病な私に比べ、我が家の大蔵大臣はあまり考えていないのか、熟慮の上の判断か、ネットショッピングを何度か使ってみた様です。ただ、クリックだけで品物をどんどん購入できるのが恐ろしく、また、商品の説明がTVショッピングの方が判りやすいとの理由もあり、少し前からTVショッピングに宗旨替えしたようです。(どちらでもいいけれど、衝動買い・買い過ぎに注意！)

インターネットでは情報が氾濫しています。昨今話題の掲示板サイト「2ちゃんねる」でも様々な情報が飛び交っています。情報の真偽については、自分が責任を持って判断しなければいけないものですが、「2ちゃんねる」を読んでいると本当に色々な意見があるものだと感じています。ただし、その意見は、全般的に世の中を斜めに見た視点からの意見が

多く、世の中を真っ直ぐに見つめる視点でできている掲示板が見つけにくいのも事実です。意見というよりも雑多な情報のつぼという雰囲気です。そのつぼを使っているか否かは別の場所でのいうことなのでしょう。

話は変わりますが、先日、お盆の墓参りで帰郷した祭、一人暮らしの叔母が、世の中の動きはTVのニュースで判るので、最近新聞を取っていないと言っていました。最新のニュースやイベント情報など自分が欲しい情報を欲しい時にネットでピックアップできるようなった現状では、新聞もあまり要らなくなったと考えている人も居るのではないのでしょうか。

しかし、活字・紙文化にどっぷり浸かってきた私にとっては、顔を上げて考える姿勢、活字の色・形・大きさ、文字との距離など、長年、慣れ親しんできた思考形態を変え、ペーパーレス化に順応するのは難しいなあと思っております。情報収集はネットから、その活用・分析は紙を使ってというのが、私には適していると思っております。

いずれにしても、私にとっては、現在のPCの世界は、私が始めてプライベートでPCを購入した平成3年頃には想像もつかなかったものであり、今更ながらに技術の進歩と新しい環境を吸収する人間の能力はすごいものだと感じています。

す。これからの10年後に、どのような新しい世界を見ることができるとかという楽しみと、それに付いていけるのかどうかという不安とがない交ぜになった気持ちを持って、これからの10年を過ごしていきたいと思えます。

日本の洗濯・ヨーロッパの洗濯

葛馬 弘史 (昭59年卒)

1980年、滋賀県(通称)琵琶湖条例。

この年、家庭排水に含まれる燐による湖沼の富栄養化を防ぐため、滋賀県内での洗濯用合成洗剤の販売と使用が禁止された。

当時在学中であった私は、すぐ隣の天津市内のスーパーから洗濯用洗剤が消えたのを目の当たりにした。一方で京都市内では今まで通りに洗濯用洗剤が販売されていた。

滋賀県の人口は、日本全国の1%ちょっと。この条例が施行されても、私を含め99%近くの消費者は、今まで通りに燐酸を含む合成洗剤を使って洗濯することができたし、実際そうやって洗濯していた。

しかし、この条例は全国の消費者の意識に変化をもたらすことになる。それまでは、当時公害と呼ばれていた環境問題に関して、産業、つまり生産者が加害者で、消

費者は被害者だという意識が一般的だった。しかし、洗濯という家庭の日常生活に規制をかけたこの条例は、家庭生活が汚染の源である事を消費者に認識させるきっかけとなり、消費者が加害者意識を持ち始めた。

滋賀県のスーパードから洗濯用合成洗剤が消えた状態は、長くは続かなかつた。1年もたたないうちに状況は大きく変化する。大手洗剤メーカーは、消費者の意識の変化を受けて、燐を含まない合成洗剤を開発した。この「無りん洗剤」はすぐに量産が開始され、全国規模で宣伝と販売が始まった。滋賀県のスーパードでは洗濯用合成洗剤が復活した。滋賀県以外では、従来の「有りん洗剤」が「無りん洗剤」に置きかわっていった。こうして、全国から燐を含む洗濯用洗剤が姿を消した。

全国の大半の地域で洗剤に関する公的規制がなかったにもかかわらず、無りん洗剤が一気に全国に普及したのは、消費者の加害者意識によるものだった。成熟していく商品経済の中で、メーカーはあらゆる商品の開発において、この加害者意識を無視することが出来なくなつた。安全性や信頼性やアタセシビリティと並んで、環境に関しても、公的規制の水準を満たすだけでは足りず、それより高いレベルの開発競争をしなければメーカーは生き残れなくなつた。

その後、選択用洗剤はコンパクト化され、コップ一杯からスプーン一杯になつた。食器洗い洗剤も、スポンジに一滴たらすだけで何枚もの皿を洗う事ができるようになった。洗濯機は、洗濯物の量を自動計量して、洗剤・水・電力の消費量を自動的に最小化するようなものに進化した。あらゆる電気製品に、ゼロスタンバイ電力機能が

つき、電源スイッチをこまめに操作する事なく、電力の無駄を防止できるようにした。自動車メーカーは「人にやさしい・地球にやさしい」という宣伝文句を使うようになり、技術開発の方向は性能から環境へと大きく変化した。飲料の空き缶やPETボトルは、デポジット制度がないにも関わらずリサイクルされるようになった。名刺やA4コピー用紙には再生紙が使われるようになった。この20年余の変化の多くは、公的規制などで強制されたものだけではなく、消費者を意識したメーカーの商品開発競争の結果としても起こつた。

2001年に家電のリサイクルが開始された。リサイクルの費用負担は消費者の責任であると定義され、廃棄時に消費者がリサイクル費用を支払う。

1998年、イギリスへ引越。2000年にはイギリスからドイツへ引越。仕事の都合により、私はヨーロッパで生活する

ことになつた。

ヨーロッパのスーパードに並ぶ洗濯用洗剤は、日本と同じように1.5kg詰めぐらいの小さい箱で売られている。しかしこれはコンパクト洗剤ではなく、5kgの洗濯物にコップ一杯の洗剤を使う。箱の成分表示を見ると「燐酸塩 15%」。つまりこれは有りん洗剤だ。

ヨーロッパの洗濯機には水量の自動調整機能はなく、洗濯物が多なくても少なくとも同じ水位になるまで水を入れ、洗剤と水を浪費する。70dBもの騒音を出しながら十分脱水できず、衣類に残つた洗剤を中和するためにいつも柔軟剤が必要になる。ヒートポンプ式でない衣類乾燥機は、電熱ヒーターで空気を熱し、使い捨ての水道水で冷却する。洗濯機の脱水までのコース1回の消費電力量は1〜2kWh。ヨーロッパで下水道が普及する前、街路が汚物であふれていた時代の、洗濯物を煮沸する習慣が今でも残っているため、洗濯機は冷水洗濯ができない。

地球の裏側にあるこの極西の地では、この20年に日本で起こつた消費者意識の変化がまだ起きていなかった。速さやパワーを強調する車の宣伝。交差点ではどの車も急発進でダッシュする。月1回霜取りが必要な冷蔵庫。真っ白なパーズンパルプの名刺やA4コピー用紙。吸引仕事率ではなく消費電力が大きい事を宣伝する巨大な掃

除機。保温機能がなく、毎回2300Wもの電力を使って残り湯をわかす電気ポット。イギリスで住んでいたわずか50平方メートルあまりのアパートでは、暖房は全て都市ガスで賄われているのに、1ヶ月の消費電力量が500kWhにもなつた。東京に住んでエアコン冷暖房を使っていた時はこの3分の1で済んでいた。

昔、印刷技術が中国で実用化され、何度もヨーロッパで紹介されたにも関わらず、ヨーロッパがその技術を受け入れたのは7百年も後の事だつた。それに比べると、20年なんて短いのもかもしれない。しかし、ヨーロッパの携帯電話がカラー液晶・カメラ付き・多重音声になったのが、日本や韓国からわずか2〜4年遅れだったのと比べると、洗濯の20年はやはり長い。

2002年11月、欧州廃電気電子機器(WEEE)指令
ヨーロッパの大半の国では現在、家庭電気製品のリサイクルは行われていない。この指令にもとづく法令が各国で実施される2004年〜2005年には、電気電子機器のリサイクルがヨーロッパでも開始される。

この指令は基本理念として、リサイクル費用は生産者が負担するとしていた。消費者はリサイクル費用の支払いを直接には行わない。日本の家電リサイクルのような、廃棄時に消費者が費用を支払

うやり方は、ここでは認められない。日本では昔、消費者は環境について加害者意識を持っていなかった。もしその時代に日本で家電製品のリサイクル制度を作っていたら、きっとこれと同じものになつていただろう。

本当に必要な物?

高山 訓治(昭61年修卒)

「あなたにとって本当に必要な物は何ですか?」こう聞かれると、何を思い浮かべるでしょうか。家族、友人、がまず真っ先に思い浮かぶかもしれません。そして、空気、水、食料、など生命維持に必要な物とか、現実的に、冷蔵庫、洗濯機、衣服、寝具、そして、お金のような生活必需品、あるいは、趣味に係るもの、あるいは、夢や希望とかが挙げられるかもしれません。

そう考えてみると、それ以外のただ何となくあるものが身の回りには何と多いことか。戦後の成長社会では、物が無かつたので、生活必需品がほとんど開発・生産されたと思います。これらは必ず最低限の機能がいかにか低価格で提供できるかが問題で小品種大量生産することで製造業は成り立っていたように思います。しかし、今日、社会は成熟し、生活必需品はほとんどすべての家庭に揃いま

した。そこで、製品は多機能とか高性能の方に向かい、多品種少量生産になってきたように思えます。

そのような方式の一つとして製品のサイクルを数ヶ月とかの短いサイクルで変えていく方式も含まれるでしょう。製品が多機能や高性能になればなるほど、開発も複雑で工数もコストも掛かるはずで、これを短いサイクルで回すとするとそれはもう大変です。過酷なスケジュール、書類の山、メールの嵐、…、そして、…、その結果、ふと振り返ってみると、社会に溢れる物、…。

最近、シンプルな生活に憧れているという話をよく聞きます。キャンプに行ってみただが、生活に必要な物が自分のバッグ1つに全部入っていることに改めて考えさせられた、とか。田舎暮らしに憧れているんです、とか。たぶんシンプルさの裏では自然という偉大な物が手助けしているんだと思います。社会主義が崩壊して、資本主義は十分うまく行っているとは言えないと思いますが、まだ何とかやっています。人間は貪欲な生き物なので、資本主義のようにどこかに成長していく方向がないと駄目になっていくのかもかもしれません。田舎暮らしでもたぶん何か力を注いでいける方向が必要な気がします。

これからの社会はどうなっているのか。不景気な中でも、趣味関係の物やブランド品は売れているように思えます。音楽、映画、写真、絵画、といった芸術や、茶道、華道、武道、といった道を極めるものは盛です。一方、物を大量に生産して儲ける仕組みはもう限界のような気がしてきています。物質社会から徐々に精神社会に移ってきているのかもしれない。ハードからソフトへ、そしてさらに、サービスへ、とか、リサイクル、とか、あるいは、良い物を長く使っても儲かる仕組みが必要な気がします。

くのでしょうか。伝統工芸品のように愛着を持って長く使える製品、また、そのような製品を技を持って創作できる職人、そして、おもちゃのお医者さんのように製品を大事に直せる仕組み、こういうことを考えて直してみれば、と最近思っています。本当に大事な物は何と聞かれたときに、思い浮かぶようなそんな物作り、皆さんは如何でしょうか。

私は昭和62年に電気第II専攻修士を修了いたしました。京大電気は大学院からの入学で2年間の短い期間でしたが、私にとっては現在に至る日々を支えてくれていて貴重な2年間となりました。今回、由緒ある洛友会会報への寄稿の機

会をいただきましたので、修了から今日までについてご報告する次第です。

修了後、私はすぐに福井工業高等専門学校(福井高専)に助手として採用されました。福井高専は私の母校でもあり、幸運にも修了時に教員枠があるということを採用していただいたのでした。

昭和62年当時は、景気上昇の真只中にあり、専攻の就職担当教授の面接時に私が教員になるつもりですとお話しすると、担当教授は一瞬おやつという表情をされました。おそらくはこのような好景気で修了学生が引く手あまたの中、なぜ企業へ就職しないのかと思われるのかもありません。しかし、担当教授はすぐに「福井高専は本教室から大谷泰之先生が校長として行かれた学校ですね」と言われました。洛友会元会長でもあられた故大谷泰之先生は、私が福井高専の学生であったときにまさに学校長を務めておられたのです。そして何よりも、私がその後大学を卒業して大学院進学の際、京大の修士へ進学したいというおそろろはかなり無茶なことを考えたときに、大谷先生から励ましの手紙を頂戴しました。「とにかく合格することを考えて頑張りなさい」という大谷先生のお言葉を支えに、不慣れた受験勉強に取り組み入学資格をいただくことができたのでした。

修了後、私はすぐに福井工業高等専門学校(福井高専)に助手として採用されました。福井高専は私の母校でもあり、幸運にも修了時に教員枠があるということを採用していただいたのでした。

修了後、私はすぐに福井工業高等専門学校(福井高専)に助手として採用されました。福井高専は私の母校でもあり、幸運にも修了時に教員枠があるということを採用していただいたのでした。

よそ望外の成果に導いていただけたのも私にとつては修了の2年間があったからこそと思おうのみです。一つ不思議というかご縁のようなことを感じることはありません。それは、福井高専に長年勤められ、研究上大変お世話になった柴田明先生(現福井工大教授)、また現在福井高専におられる井上昭浩先生など電気教室の同門のご出身であるとのことで、現在の私の専門とも関連して大変ありがたく感じております。

福井高専での仕事は、研究はどちらかといえば表に出ることはなく、15歳から20歳という多感な時期の只中にある学生に対する授業、生活指導、クラブ顧問といったことが主体となりました。私はかつて自分自身も籍を置いていたサッカー部の顧問をしておりました。どちらかといえば弱小なクラブでしたが、ちょうどサッカー人気が高まった時期と重なったせいか部員も増え、平成2年には初めて予選会を勝ち抜いて全国大会へ進出することができました。高校、大学ほどのレベルにはありませんが、それでも全国大会は選手以上に私が興奮を覚えるものであり、1回戦での敗退も私の人生の中では貴重な経験となりました。福井高専の若く意欲に満ちた学生と過ごした日々は楽しく充実した時間でした。ただ、私の中でもう少し時間を割いて研究活動に取り組ん

でみたいという気持ちがあり、平成10年の秋に現在の東海大学に来ることになったのでした。

東海大学は私学であり、一般に私学ではそうであるように、担当授業数は多く週の半分近くの間は講義となります。研究に供せられる実験室があるわけではありませんが、研究に割けるスペースはシビアな問題です。それでも私は講義も含めて研究活動と考えていますし、残りの時間を実験研究に充てることのできる環境は貴重なものだと思います。現在は、誘導結合プラズマという高密度プラズマを導入した支援型のスパッタ成膜を行っており、従来型の成膜とは格段に違う様相が見られています。放電空間にコイルを挿入する内部コイル型から始めましたが、外部型も並行して実施しており、結晶成長が難しい酸化物(酸化チタンなど)において良好な成長が見られるようになってきました。いずれの技術もかなり以前から知られているものですが、結晶成長などへの応用についての未知の可能性を少しでも明らかにしていきたいと取り組んでいます。

このように振り返って見ますと、私は京大修士を志して以来今日までずっと洛友会の方々のご指導、ご援助を得てここまでやってきたことを、我がことながら改めて感じます。出身研究室(現エネルギー理工学研究所)の先生方

そして本文中にお名前を挙げさせて頂きました故大谷泰之先生をはじめとする先生方に改めて感謝申し上げます。

印刷業界と「IT技術」

(平3年卒)

木崎 正士

印刷会社という紙とインキのイメージが強く電気系出身の皆様の多くにはなじみが薄いかもしれませんが、現在のIT技術と大手印刷会社はハードの面でもソフトの面でも切っても切り離せないほど密接な関係になっている。日本の印刷業界においては、筆者が勤務している大日本印刷(以下DNP、DaI Nippon Printing)と凸版印刷(以下凸版)が、規模や売上面で二大企業となっているので、この二社を中心に、IT技術との関係を述べてみたい。

ハードの面では、DNPと凸版のエレクトロニクス部材の売上は両社とも全事業分野の約2割弱を占めている。その原点となったのは、カラーテレビなどのブラウン管の中のシャドウマスクである。ブラウン管はご存じの通り電子ビームを電子銃から照射して蛍光体を発光させるが、そのビームの絞を絞るために用いられているのが数十万個の微細な穴を開けたシャドウマスクと呼ばれる金属板である。1960年のカラーテレビ本放送開始を前に国内でのシャドウマスクの量産が急務となったが、

機械加工では不可能な微細加工を実現したのは、フォトエッチングと呼ばれる印刷会社特有の化学的な精密加工技術であった。これは、グラビア印刷で用いるインキを盛るための凹版をつくるために金属などの素材表面に写真製版プロセスを用いて必要な絵柄に耐食膜を形成し部分的に腐食させるものである。DNPは、1958年にカラーテレビ用シャドウマスクの試作に日本で初めて成功し、現在の分野で世界トップシェアの約50%を手掛けている。同様のエッチング技術は、半導体チップを配線回路に接続するリードフレームの中でも高精度少量多品種向けのものにも生かされている。

コンピュータや液晶テレビ、カーナビ、携帯電話などの液晶ディスプレイで用いられているRGBカラーフィルターは、世界シェア約50%で第1位の凸版とDNPの2社で世界市場の約8割を占めている。カラーフィルターの製造には感光性レジストを用いる方法やオフセット印刷による方法などがあり、いずれも印刷技術の延長として実現されている。

シャドウマスクやカラーフィルターからの展開で、大型プロジェクトシオンTV用スクリーン、PDP(Plasma Display Panel)など各種ディスプレイ開発にも積極的に取り組んでいる。その最先端と言えるのは、紙のように薄く軽量で丸めて持ち運ぶことができ低消費電力という特徴をもつ、カラー電子

ペーパーであろう。紙と同様に光源下で使用する電気泳動型マイクログラビア方式の反射型ディスプレイや、デバイス自体が発光する有機EL(Electro Luminescence)ディスプレイなどの開発を、大手印刷会社では手がけている。

フォトマスクは高精細な写真製版技術の応用例である。フォトマスク上に描かれた1ミクロン以下という超微細なIC回路のパターンを半導体メーカーがシリコンウェハーに焼き付けることにより集積回路の大量生産が可能となっている。上位5社で世界市場の4分の3を占めるこの分野において、1961年にフォトマスク事業を開始したDNPは、現在世界シェアで約21%、国内の約50%を占めるトップメーカーとなっている。凸版も世界シェアで約13%で第4位である。大手印刷会社では、さらにフォトマスク上に生成するLSIの回路設計や、スクリーン印刷技術を応用したプリント配線板製造も手掛けている。半導体分野では市場変化への対応のため、国内外大手半導体メーカーとの協業や営業譲渡などの動きが活発化している。未来のデバイスとして、先端研究機関では導電性高分子を用いた有機トランジスタの可能性が研究されているが、これは原理的にはスクリーン印刷やインクジェットプリンタで量産可能なため、実用化には大手印刷会社の役割が大きく期待されるであろう。

大手印刷会社では従来から金券

や証券などのセキュリティを要する印刷物を手掛けており、その流れでキャッシュカード、クレジットカード、プリペイドカードなどの磁気カードの製造に進出してきた。その進化形がプラスチック製カードにICチップを埋め込んだICカードである。クレジットカードなどで普及が進みつつある接触型ICカード上のソフトには、OSとアプリケーションが一体化した形でROMに格納されている専用OS(またはNative OS)タイプのものがあり、OSタイプのものが、「MULTOS」と「Java Card」の二者はマルチアプリケーションOSの代表的なものとなっている。大手印刷会社では、1980年代からこれらICカードのソフトとハードの開発・製造も行なっている。

最近注目を浴びつつある無線ICタグは、無線で非接触で通信を行い、内部のICメモリー内のデジタル情報のやり取りを通して、物流管理や自動識別を行うデジタルメディアである。情報の追記、書き換えが自由に出来るなど、バーコードに比べて柔軟性のある利用法が期待されており、政府による周波数割り当てなどを含めた規格標準化が進められている。大手印刷会社では、量産体制を整えるとともに、より低コスト、高性能の薄型ICタグの開発を進めている。

ソフトの面では、大量の文字・画像情報を扱ってきた印刷会社に

おけるコンピュータ導入の歴史は長い。1970年頃にはCTS (Computerized Typesetting System、電算植字システム)を導入し、1980年代には画像入力とデジタル画像処理、レイアウトを行なうトータルシステム、1990年代にはMacintosh DTP (Desk Top Publishing)の導入などを進めてきた。メーカーの製品カタログのような大量の商品情報のデータベースを印刷用に自動レイアウトするシステムを開発し、また自社開発DBシステムの外販も行なっている。デジタル印刷機によるパーソナル情報のバリアブル印刷も展開している。情報を加工し各種メディアへ展開するという観点からマルチメディア分野への進出も早く、CDROM制作はもとより、CSやBSデジタル放送の番組制作も守備範囲となっている。インターネットに関しては商用化が始まった1994年頃からホスティング・サービスやWebコンテンツ制作を開始し、現在ではインターネット・データ・センターの運営も守備範囲となっている。凸版の「BIZnet」は日本最大級のインターネット・コンテンツ課金流通事業となっている。

以上、大手印刷会社とIT技術の「意外な」関係について述べてきた。この文章が洛友会会員の皆様にとって、印刷業界のIT技術への取り組みに関心を持っていただきたっかけとなれば幸いである。

30歳になって思うこと

村井 隆之 (平8年卒)

いつもは気にしないのに、最近なぜか意識することがあります。それは30歳という区切りを迎えたこと。

日頃の生活も、私の見栄えなども特に何か変わったわけではないけど、30歳になって思うことは、私にとって、ある意味大きな区切りにあるということでしょうか。

私はきゃしゃな体つきですが、何気に体力には自信があります。夜更かしも大丈夫だし、限界を超えて飲んでもすぐに元に戻る。体を動かすのが大好きで、夏は当然、自転車で一人放浪旅。少々無茶をしても一晩寝れば、元通りに回復。入社6年目の私がいまだに覚えていることは、入社して間もない頃に上司から言われた「若いころは寝る時間を惜しんでも、いろんなことに興味を持つこと」という言葉。確かにその通りだと思つたし、それを実践してきました。ようは、体力任せに暮らしてきても、大丈夫だったということ。

ところが最近、飲んだあとと一人電車の中でふらふら。乗り過ぎして、引き返す電車が無い状態の日が3日間続いたこともありました。次の日は目を開けたまま寝ている、いわば「魚」状態になっていることは言うまでもありません。2年前から始めたゴルフの

翌々日に筋肉痛になることもあり、これは日頃の運動不足だけでは説明できないような気になってきます。鏡を見た自分の顔が少しやつれ気味と思うこともしばしば。体力的に、あれ?と思う瞬間です。

最近、良く実感することは、一人になることが増えたということでしょうか。それまでの私は、週の半分以上は飲み会(異業種交流会を含む)で、次の日を省みずたくさん飲んで、次の日に後悔することは分かっていたながら、最悪その場だけでも楽しければそれで満足だったように思います。

「男性は30歳からが魅力的」という声をよく聞きますが、周りほとんどんん落ちてしまつて、自分だけが浮き足立っているような気になっていきます。大学時代に仲のよい友人6人と、将来の落ち着く順番を予想したことがあります。私は3番目に落ち着く予想で、私的にもそれが妥当かと思つていましたが、結果最後になってしまいました。気分的に、あれ?と思う瞬間です。

以前、深夜帰宅して、一人寡黙に晩飯を食べている時に、父親が起きてきて、「心配かけるな・・・」から始まって延々と説教をされました。そこで言われたのは、「親は暇だからゴルフに連れて行け、たまには相手しろ」。家に帰っても、現役を退いた父親と顔を合わすことは数少なく、土日も私が出かけてしまうので、ほ

とんどいらないことを問い正されて言われたものです。昔、遊びに連れて行けとは私から親には言つたけど、逆にそれを言われている。ある意味、周囲の状況変化に、あれ?と思う瞬間。

こうした変化について、なぜだろうかと自分なり考え、出てきた結論。

「体力的にも気分的にも、そして周囲の状況もどんどん変化している。私はそれに気づいていないのではないかと? 猪突猛進に周りに目もくれず過ぎてきてきたけど、これからはスタイルを見直すべきかな?」。

30歳になったからといって、そのちょうど境で何かが劇的に変わるはずもなく、特に根拠はないのですが、一つの私の区切りとして、前後を見渡したとき、そこに大きな線引きがあるので、そこには大きな実感があります。

社会はいろんな意味で変革の過渡期にあります。でも、私も同じ時期にあるのかなと思います。個々は一つ、線を引いてこの区切りをきつかけに、新しい自分のあり方を探して生きたいと思つています。でも老け込むつもりは全然ありません。とりあえずは、40歳までは・・・といったところでしようか。



支部だより

中部支部総会報告

今年度の中部支部総会は、去る6月28日、名古屋駅前の名鉄グランドホテルにおいて開催されました。当日は本部より近藤文治会長、教室からは鈴木実教授のご出席を頂き、総会は定時(午前11時)に始める事が出来ました。冒頭の挨拶で、第3代目支部長として昭和62年から16年間の永きに亘つて支部発展に貢献された大野彰氏が辞意を表明され、新支部長に増田宗敏氏を推薦されました。議事は前年度の事業報告、会計報告を承認した後、今年度の役員選出に移りました。その結果、事務局の提案



に従って、増田宗敏氏が新支部長として承認されました。これに伴い役員を一新することになり、次のとおり満場一致で承認されました。今年度の新役員は、顧問 大野彰氏（昭25年卒）、支部長 増田宗敏氏（昭38年卒）、副支部長 小林郁夫氏（昭44年卒）、杉谷達夫氏（昭50年卒）、総務幹事 林靖人氏（昭42年卒）、松浦昌則氏（昭53年卒）、会計幹事 安藤和史氏（昭47年卒）です。

ところで、このところ中部支部の総会は十数人の出席者で少なすぎるくらいがありました。今年なんと33名もの出席ということになり、近來にない大盛況となりました。これはとりわけ中部電力、トヨタ自動車、デンソーの各社の会員が積極的に参加された結果と思われます。また、これを機に支部活動を見直してはどうかという意見があり、総会案内と同時にアンケートをお願いしました。人気はやはり、例年秋に開催している「家族同伴・秋の例会」という見学会でしたが、希望ヶ所は千差万別でありました。行き先は事務局で検討し、参加希望者に改めて連絡することでの案件は承認され、無事議案全体が承認されました。議事終了後、近藤会長から洛友会について、鈴木教授からは桂キャンパスへの移転等教室の現状を報告して頂き、新支部長の挨拶のあと全員で記念写真を撮って一

旦休憩となりました。例年ですとこの後の会食（懇親会）で参加会員全員が近況を報告して、概ね2時間で終了するのですが、今回は参加者が多く、また初参加の方が多かったことでこの報告が長引き、3時間を超す総会となりました。最後に恒例となっている校歌に代わる「琵琶湖周航の歌」を全員で合唱し、今後の中部支部の活動を活性化することを誓い合いました。

林 靖人（昭42年卒）記

東京支部ゴルフ会報告

関東支部ゴルフ会幹事

当支部のゴルフ会は毎年3回、関東の名門コースで開催しています。最近の活動状況を報告します。

案内・申込 東京支部のホームページ（従来通りの郵便案内もあり）に開催日時、場所、予約組数（10組）等を数ヶ月前から載せていますので御覧下さい。申込みはメール、葉書、電話で、幹事が受け付けています。ゴルフ会員に登録されていない方でも、関東在住以外の方でも、誰でも参加申込みを受け付けています。

参加者 毎回の様に、93才の林潔さん（昭和10年）、甲斐靖造さん（昭和16年）、土方利夫さん（昭和17年）、古川満智雄さん（昭和17年）等の大先輩の参加もあって、平均年齢70歳位のこともあり、



平均参加者数は35名位です。40年代後半以降の会員の積極的な参加を望んでいます。

ハンデキャップ 年令やプレーの上手・下手に関らず、誰もが入賞出来る様にと、年令やスコアーにより、随時ハンデイを修正する方式にしています。現在はハンデイ「6」（昭和33年卒の田中茂巳氏）から、ハンデイ「50」までの構成になっています。

賞品 参加費（5000円）と支部からの補助金とで、盛沢山の賞品を用意して、会を盛上げています。優勝、2位、3位、4位、5位、7位、10位、15位、・・・BB賞、当日賞、敢闘賞、特別賞、大波・小波賞、ドラコン賞、ニアピン賞等で、全員には参加賞を出しています。

平成14年度開催状況 最近の開催日・場所と成績は

回数	開催日	場所	優勝	2位	3位	参加者数
第96回	14・7・9	相模原CC	千本(41)	石黒(40)	小西(33)	29名
第97回	14・11・6	程ヶ谷CC	佐藤(36)	鈴木(40)	田中(33)	35名
第98回	15・4・4	相模CC	江上(41)	喜多村(36)	前川(36)	38名
第99回	15・8・29	相模原CC	北村(35)	荒居(33)	村上(36)	35名

等々、上位入賞者は60歳台の方々が占めています。

第98回に於いて、村井寛治さん（22年）が10番ホールで、ホールインワンを出されました。この快挙は、洛友会東京支部ゴルフ会では、初めてのことでです。

第100回記念ゴルフ大会 平成15年11月7日（金）、名門程ヶ谷CCで、第100回を記念して、色んな賞を企画し、盛大なゴルフ大会を予定しています。全国からの会員の参加を歓迎いたします。参加者多数を見込んで特に12組の予約をしています。

連絡先 お問い合わせは、ホームページか下記宛へお願いします。ゴルフ会幹事 安原碩人（33） 0467-77-8694

今年の夏は10年ぶりの冷夏となり、先日の発表によれば米をはじめ農作物の作柄は不良で、早くも一部で価格が上昇しています。

一方、2年10ヶ月ぶりの円高傾向で輸出関連企業にとっては深刻な局面を迎えており、折角国内景気が回復しつつある状況に気掛かりなことです。

かねてより待望の桂キャンパスも今秋完成、10月初めより開講となりました。詳細は次号に掲載を計画しております。

計報

大13	菅原 義重	15・7・12
講昭8	大久保三郎	7・8・14
昭12	丸山 孝雄	14・11・19
昭12	清水 淳一	14・12・27
昭14	絹笠 隆三	15・6・29
昭16・3	嘉田 隆美	14・4・7
昭20	田中 隆造	15・4・30
昭35	口羽 健介	14・6・11
昭39	田中 智	15・2・13

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

ゴルフ会幹事 石黒 公（40） 03-3727-6413
 ゴルフ会幹事補助 舟田正男（24） 045-891-1711